

長崎の偉人 梅屋庄吉

監修 小坂文乃



長崎の偉人 梅屋庄吉

監修 小坂文乃



第1章	庄吉の青春・・・	01
第2章	庄吉と孫文・・・	06
第3章	第二革命、そして孫文の恋・・・	13
第4章	庄吉の晩年・・・	18
最終章	時空を超えた庄吉の想い・・・	24
付録	年表・資料集・・・	25

第1章

庄吉の青春



しょうきち 庄吉 27 歳



しょうきち 庄吉 10 歳

外国との交流が自由にできなかった鎖国の時代にあつてなお、海外に開かれていた長崎。明治時代になつても、自由で柔軟、のびやかな町の性格は変わらず、中国人をはじめイギリス人やロシア人などさまざまな国の人々が行きかっていた。長崎育ちの庄吉にとって、中国人は、とても身近な存在だったので。

梅屋庄吉は、明治元（一八六八）年、長崎の町に生まれました。生まれて間もなく、遠い親戚にあたる梅屋家の養子となつた庄吉は、長崎・西浜町の中島川のほとりで貿易商と精米所を営む「梅屋商店」で、やんちゃな少年時代をすごしました。後の三菱財閥の創始者となる岩崎弥太郎が、当時近くに住んでおり、「彼にかわいがられ一緒に遊んでもらっていた」と庄吉は後に回想しています。長崎のもつ独特の空気が、好奇心と冒険心にあふれた少年・梅屋庄吉を育みました。

やんちゃな少年・庄吉は、幼い頃から誰も考えつかないようなことをやっつては、周囲の大人たちを驚かせていました。その冒険心と行動力が、若い庄吉を、未知の大陸へと突き動かしていくのです。



しょうきち シャンハイ
① 庄吉が初めて訪ねた時代の上海の町並み
横浜開港資料館所蔵

は、家のお金三百円を黙って持ちだして、大阪、京都まで出かけました。今でいう「卒業旅行」です。三百円は今の金額で、二百万円以上というから驚きです。

庄吉が十四歳のときには、当時「白ドック組」を名乗って暴れ回っていたグループに果たし状を送り、金比羅山でやつつけたことがありました。「梅屋商店」の船にこっそり乗り込んで、初めて大陸の地を踏んだのもこの頃です。庄吉は上海で、海のような大河、そこに浮かぶ商船、軍艦、また帆船、岸に立つ白く高い西洋館、そして巨大なドックを目にします。後年、彼はその時の気持ちを「将来の雄志を抱いた」と回想しており、上海の発展を肌で感じた驚きと、この体験が彼の将来に与えた影響をうかがい知ることができます。

※「猫魂がはいつた」…時のお船で使われた言葉で、はんやりしつたり、はいつたりしている時にさういわれた。



ねこだま 「猫魂」騒動

1 強運の持ち主・庄吉

庄吉は五歳の時、中島川に落ちて死にかけたことがありました。溺れて死んだと思われた庄吉は、棺の中でひょっこり息を吹き返します。目が覚めてもぼんやりしていたため、周りの人々は「猫魂がはいつた」と大騒ぎし、ほうきでたたいて正気に戻しました。この出来事は彼の自伝「わが影」に記されています。彼は成長してからも、何度か死に直面する危機から逃れていきます。猫は魔性・魔力を持ち、何度も生まれ変わるといふ言い伝えもあり、庄吉に宿った「猫魂」が、彼を守ったのかもしれない。

学業優秀だった庄吉は、小学校入学時の試験では飛び級し、通常より三年ほど早く十歳で卒業しています。卒業のすぐ後に



① 梅屋庄吉・トク夫妻

な気配りもできる女性でもありました。身長百六十五センチメートルほどあり、当時としては大柄で、庄吉と並ぶと同じ位の背だけだったそうです。

このおかしな出会いから数年後、庄吉が二十七歳、トク二十歳のときに二人は結婚します。その当時の庄吉は、中国や東南アジアで活動していたため、トクに家業を任せると大陸に舞い戻ってしまいました。そのため二人の本当の新婚生活が始まったのは、結婚式から九年も後のことになるのです。



しょう吉とトクの出会い

2 生涯のパートナー、トクとの出会い

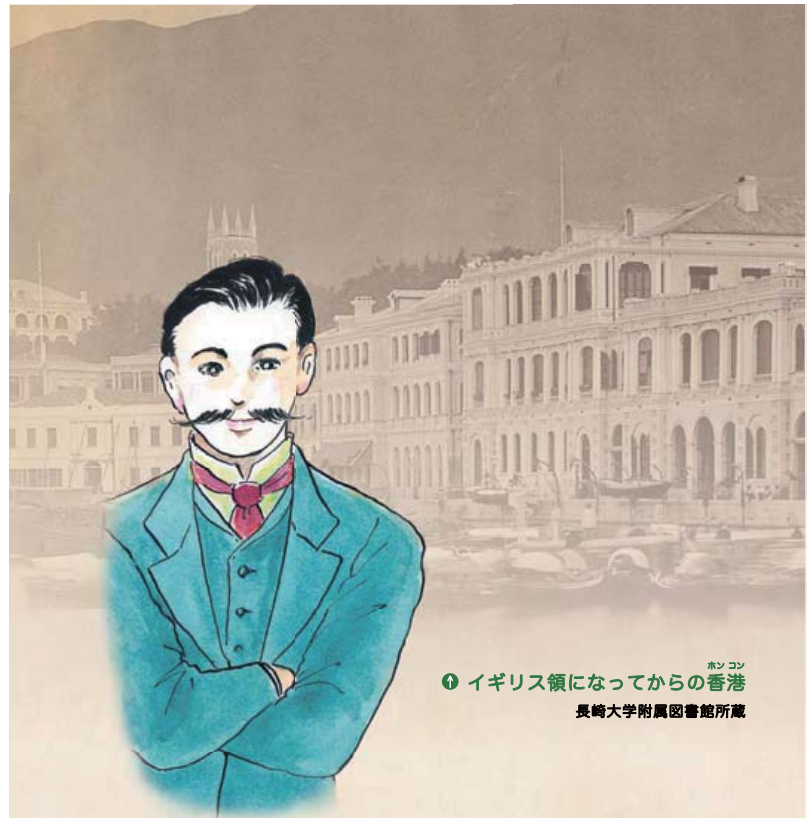
庄吉は、大人になっても、持ち前の冒険心でさまざまな事業をおこし、アジア各地を飛び回っていました。

あるとき、久しぶりに長崎の家に帰ると、庄吉が見たことのない若い娘がいます。二人はたがいに「あんた、だれじゃい」「あんた、どこの人な？」と不審に思いました。実は、この娘は、鉄砲玉のようどこかへ行ったまま帰ってこない庄吉をあきらめた両親が迎えた養女・トクだったのです。

壱岐の士族の家で十七歳まで育ったトクは、武家の出らしく、曲がったことがきらいで男勝りの気性をしていました。その反面、思いやりの心を持ち、細やかなのです。

庄吉と孫文

東洋の平和を実現するためには、日本と中国の友好が大切だと考えた梅屋庄吉。その理想を実現するには、中国で革命を起こす必要があると説いた孫文。二人は香港で運命の出会いを果たします。



① イギリス領になってからの香港
長崎大学附属図書館所蔵

中国や東南アジアを放浪していた間に写真技術を身に付けた庄吉は、香港で写真館「梅屋照相館」を開きました。写真館は、出張撮影などの目新しいサービスで繁盛していたといいます。もともと庄吉は、香港を拠点に東南アジアでのビジネスを計画していましたが、一八九四（明治二十七年）年に日本と中国（清国）のあいだで戦争が起こり、国の内外での情勢が変わったために、東南アジアでのビジネスはあきらめざるを得なくなりました。

中国は、以前にイギリスとの戦争（アヘン戦争）に敗れた結果、イギリスをはじめとする西欧諸国の中国国内への進出を許すこととなりました。紀元前の昔からいくつもの王朝が誕生と滅亡を繰り返し、広大な国土を治めてきた中国は、これまでにない大きな転換期を迎えようとしていたのです。

1 孫文の生い立ち

孫文は一八六六年、中国（清国）広東省の貧しい農家の三男として生まれました。一家の暮らしは楽でなく、孫文は十五歳まで靴をはいたことがなかったほどだそうです。村の塾で学問に励んでは、人々を貧しさから救い出したいと考えるようになりました。

やがて、出稼ぎにいった兄を頼り、西洋の教育を受けるためにハワイに渡った孫文は、東洋人を見下す風潮のなかで優秀な成績を修め、ハワイの最高学府オアフ・カレッジに進学しました。アメリカの民主主義やキリスト教の考えに触れるうちに、祖国を変えたいという孫文の思いは強くなっていったのです。帰国した孫文は、医者を志して香港で勉強を続けました。

い がく じ だい ゆうじん そんぶん
医学時代の友人と孫文（左から2人目が孫文）



ジェームス・
カントリー博士

しょうきち
庄吉

そんぶん
孫文



3 栄光と挫折のなかで

出会いから半年あまり、孫文が立ちあがる時がきました。中国の広州で革命を起すことを決めたのです。庄吉は、革

「中国の民を救い、アジア人の屈辱を晴らす。そのためには清国政府を倒す革命を成功させなければなりません。わたしたちを助けてほしい」
孫文の心からの訴えに、庄吉は「君は兵を挙げよ。我は財を挙げて支援す（あなたは兵力で国を変えてください。私は資金を出すことでそれを助けます）」と、感激してこたえました。

中国とアジアの将来について同じ意見をもつ二人は、熱く語り合いました。

れてしまおう。」

2 庄吉の誓い

そのころの香港はイギリス領で、医学校の授業も英語でおこなわれていました。孫文は、恩師であるジェームス・カントリー博士に「自分は医者ですが、本当に治したいのは祖国なのです」と打ち明けます。それから博士は、孫文の良き理解者となりました。

写真が趣味だったカントリー博士は、庄吉の写真館をたびたび訪れていました。中国の未来を心配する庄吉の思いが、孫文の思いと共通していることに気付いた博士は、あるとき二人を引き合わせます。庄吉が二十七歳、孫文が二十九歳のときでした。

「このままでは、中国は西欧の植民地にさ

ハワイから帰国して
医師の勉学に
いそんでいた
孫文であったが…。

孫文

わたしが一番
治したいのは
この国なのです

カントリー
博士

こうして孫文は
写真館を営む
庄吉のもとを
訪ねることとなる。

そのとおり
です

アジアは
共に手を
結ぶべきです

庄吉

孫文君

わたしは、
君とよく似た
思いの人物を
知っている

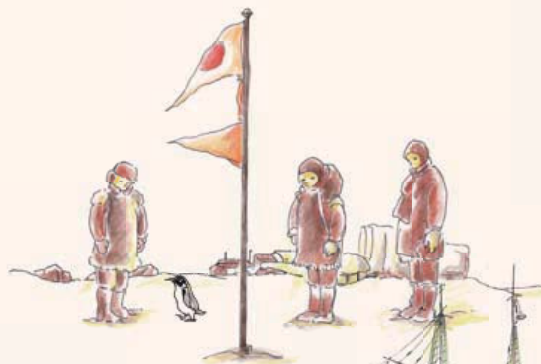
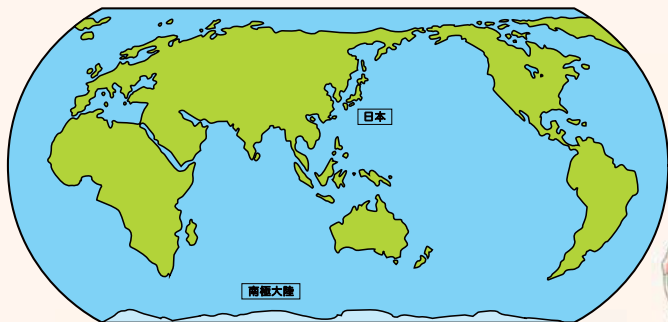
カントリー
博士

しょうきち そんぶん
庄吉と孫文の出会い

手をかして
くれますか？

よろこんで

二人は
意気投合し、
庄吉は
「君は兵を挙げよ。
我は財を挙げて
支援す」と誓った。



探検隊が南極に到達して
日章旗をかかげたところ
1910年（明治43年）12月29日

南極探検隊用船南丸



① 映画上映に、女性のエスコート
クーポン券などのサービス



庄吉は、映画事業で得た利益を革命支援につきこんでいます。日本では、孫文らを支援する団体を置いて、革命思想を広めるための広報誌の発行を援助し、現地には革命の活動資金を送り続けました。そのあいだ革命軍は、中国各地で九回にわたり兵を挙げましたが、ことごとく失敗しています。しかしついに歴史が動

きました。また、教育映画の上映や、南極探検隊の記録映画の撮影など文化的にも大きく貢献しています。ペンギンやアザラシ、探検隊の様子を撮影したフィルムは当時の人々を驚かせ、我が国で現存する最古のドキュメンタリー映画となっています。

庄吉は、映画事業で得た利益を革命支援につきこんでいます。日本では、孫文らを支援する団体を置いて、革命思想を広めるための広報誌の発行を援助し、現地には革命の活動資金を送り続けました。そのあいだ革命軍は、中国各地で九回にわたり兵を挙げましたが、ことごとく失敗しています。しかしついに歴史が動



庄吉と映画

命軍の武器購入のため、資金を援助しました。ところが、いよいよというところで、革命の計画が政府に知られてしまったのです。仲間たちは捕らえられ、孫文にも賞金が懸けられました。孫文はハワイに逃れ、身の危険を感じた庄吉もシンガポールに逃れます。

香港を去った庄吉は、持ち出していた映写機と記録フィルムを使って、シンガポールで興行することを思い付きました。急ごしらえのテントの中、楽団の生演奏をつけて上映した映画は大評判。興行は大成しました。明治三十八（一九〇五）年に長崎に戻ったとき、庄吉は五十万円（現在の約十四億円に相当）の現金を持っていたといわれています。

庄吉は日本の映画界にも進出し、割引



孫文

VS



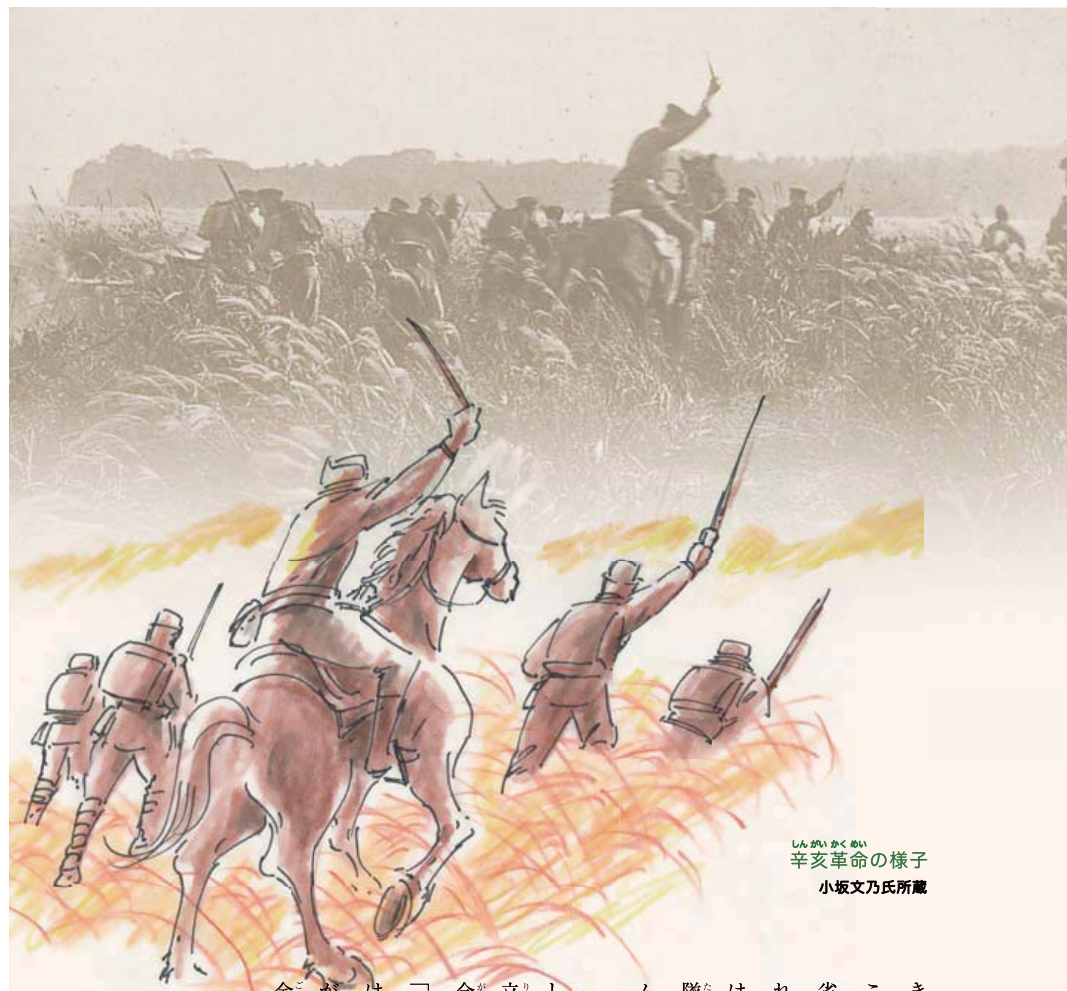
袁世凱

第3章 第二革命、 そして 孫文の恋

革命の成功を喜んだのも束の間、ふたたび追われる立場となった孫文を、庄吉をはじめ日本の支援者らが助けました。亡命中の孫文の生活を支え、さらには彼の恋愛まで実らせさせたのは庄吉とトクでした。

中国では、辛亥革命のあと「中華民国」が建国されました。長年の願いがかなった孫文は臨時大統領に選ばれましたが、新政府にはまだ中国全土を治めるだけの力がありませんでした。そのため孫文は、強力な軍隊を持っていた清の軍人・袁世凱に臨時大統領の座を譲り、自分は新しい国の鉄道建設や産業、外交などにあたることにしました。

日本を訪ねた孫文は、革命を成し上げた英雄として、国をあげての歓迎を受けました。庄吉は、そのことを大変嬉しく、また誇らしく思いました。その後、孫文を東京の浅草に招き、辛亥革命の戦いの場面を写したフィルムを、彼のために上映しました。日本各地で講演をした孫文は、最後に長崎に滞在し、さまざまな人々との交流をもちました。ところがその最中、中国で事件が起こりました。孫文の右腕であり、実質的な国民党の党首であった宋教仁が、袁世凱の手のものに殺されたのです。権力を独り占めるために、人気のある孫文の国民党がじゃまになったためでした。



辛亥革命の様子
小坂文乃氏所蔵

きました。一九一一年、湖北省武昌で起こった戦いが中国全土へ広がり、十七の省が清国から独立を果たしたのです。これを辛亥革命といえます。このとき孫文は中国にいなかったため、庄吉は、撮影隊を現地に派遣し革命軍の戦いをフィルムに収めました。

のちに、庄吉は映画界での大仕事を成しとげることになります。映画会社が乱立していた状況の中、四つの映画会社を合併させるのです。そして誕生したのが「日本活動写真株式会社」です。庄吉自身はすぐに経営から退くことになるのですが、この会社は、その後の日本映画の黄金時代を築いた「日活」になりました。



第二革命の様子

1 急転直下

革命の精神をふみにじり、軍備を増強していく袁世凱。「このままでは中国は昔に逆戻りだ」と、孫文は二度目の革命を決意します。しかし、袁世凱は中国の正式な代表者であったため、日本政府からの支援は期待できません。そんな中、庄吉は大変な苦勞をして武器を手に入れ、革命軍に送りました。しかし、軍事力の差はどうにもできず、第二革命はあっけなく制圧されました。

中国を追われた孫文は、密かに日本へ脱出しました。庄吉をはじめとする支援者らは、追われる孫文を協力してかくまいました。孫文の日本での生活は、二年八カ月にも及びました。

その頃慶齡は、日本で亡命中の孫文の秘書をしていた。

孫文

あなたの
おかげで
どれだけ
仕事は
はかどって
いるか

ありがとう
ございます

宋慶齡

わが祖国の為に
心を砕いておられる
孫先生のお役に
たてて光榮ですわ

では
ピアノを一曲弾いて
いただけますかな

はい
よろこんで



こうして二人は、
次第にひかれあう
ようになっていった。

宋慶齡 宋慶齡

宋慶齡



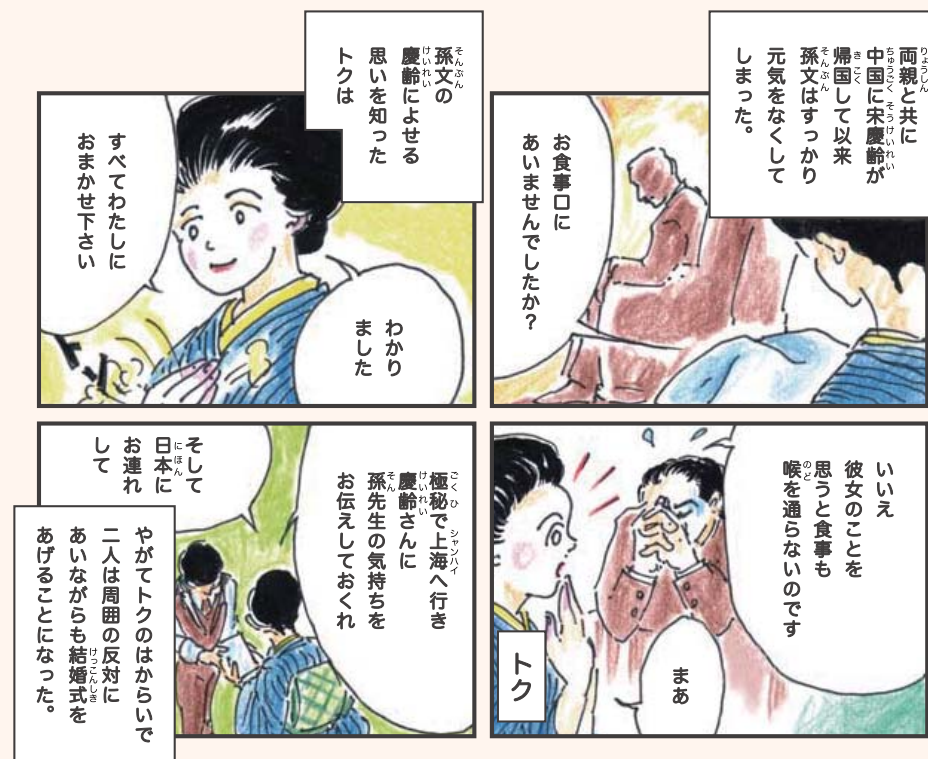
庄吉の東京での住まいには、当時まだ珍しかったピアノがありました。そして、そのピアノを弾くのを楽しみにしている、若く美しい中国人女性がいました。名を宋慶齡といい、革命派の実業家の娘で、アメリカの大学で学んだ才女です。秘書として支えてくれる彼女を、孫文は深く信頼し、慶齡も孫文に尊敬と親しみを感じていました。そんな時、慶齡は急に中国に帰ることになりました。

※支援者：力を貸して助けてくれる人。
※才女：才能や知恵がある女性。



孫文と宋慶齡とトク ①

二人は結婚を反対されましたが、二人は一九一五（大正四）年に梅屋敷の大広間で披露宴を挙げました。仲人役を務めた庄吉とトクは、厳しい門出となった孫文夫妻を、経済的にも精神的にも支え続けたのです。



孫文に悩む孫文

2 孫文の結婚

元気のなくなった孫文の様子に、まっ先に気付いたのはトクでした。

「私は慶齡のことが忘れられない。彼女に会って初めて、愛を知った」

少年のように恋を語る孫文に驚きながらも、トクは彼に、あきらめるよう忠告しました。なぜなら、孫文と慶齡は二十六歳も年が離れていたからです。しかし、孫文の真剣さに心うたれたトクは、二人のために骨を折ろうと決めます。孫文の気持ちを慶齡に届けるため、庄吉にも内緒でただちに慶齡のいる上海へ使いを送りました。その行動力には庄吉も驚き、そして感謝しました。

慶齡の両親をはじめ、孫文の同志たち



小坂文乃氏所蔵

① 晩年の孫文と宋慶齡

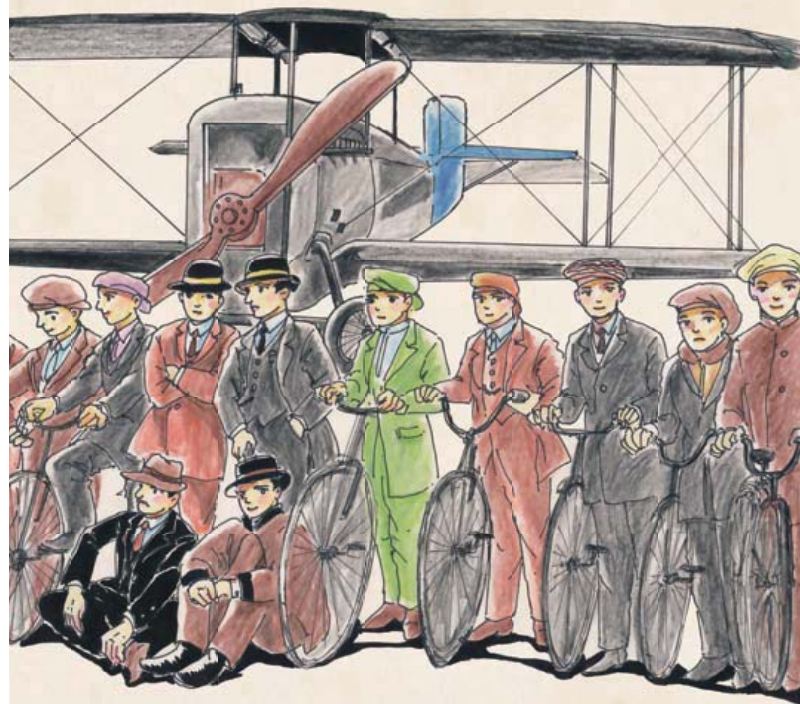


① 革命軍飛行隊

1 革命の父、死す

革命派の勢が増す中、袁世凱が急死しました。形勢逆転のチャンスに飛行隊が飛び立ちます。上空から降伏をうながすビラをまく飛行機を見て、中国政府軍は「天の仙人がきた」と大騒ぎになりました。革命は成果をあげて終結しますが、その後もしばらく中国の政治は揺れつづけます。

一九二四（大正十三年）年、孫文は六年ぶりに来日しました。「アジアを支配しようとする欧米諸国に対抗し、アジアは連合してともに発展しよう」と熱弁をふるった孫文でしたが、帰国後まもなく腹部の激痛におそれ、倒れてしまいます。肝臓がんでした。翌年「中国革命の父」孫文は、波瀾万丈の一生を終えました。



一九一四（大正三）年に第一次世界大戦が始まります。日本は大陸に勢力を伸ばし、翌年日本側有利な「二十一か条の要求」を袁世凱率いる中国政府に認めさせました。中国の人々の間で、政府に対する不満は急速に高まり、袁世凱を倒そうという動きがあちこちに広がりました。これを「第三革命」と呼びます。

亡命先の日本で、巻き返しのチャンスをつかっていた孫文は、軍事・政治経済・飛行機操縦の三つの学校を作り、革命をになう人材の育成にあたりました。生徒の多くは中国人留学生でした。このうち「革命軍飛行学校」は、庄吉が設立・運営に全面的にかかわっています。飛行機は、新しい兵器として第一次世界大戦から使われ始めました。飛行学校では、バランス感覚を養うために自転車に乗る訓練から始め、スピードに慣らしていったそうです。そのころの中国では、自動車はもちろん、自転車も一般的な乗り物ではなかったため、練習が必要だったのです。

第4章 庄吉の晩年

激動する時代、日本と中国の関係も悪化していきます。それでも庄吉と孫文は、信念を曲げませんでした。そして今、二人の理想は、現代の私たちに引き継がれたのです。



小坂文乃氏所蔵

● 梅屋庄吉が贈った孫文像

① 南京での孫文像寄贈式で
祝辞を述べる梅屋庄吉



の千世子のために貯めていたお金までつき
こんだといひます。

銅像を贈るために中国を訪れた庄吉とトクは、反日のまった中にもかかわらず、熱烈な歓迎を受けました。孫文像の除幕式に、庄吉はあえて和服でのごみしました。日本には孫文を敬愛し、中国との関係を大切に思う人々がたくさんいるということをおも、かつてもらいたかつたからです。この時、国民政府の代表・蔣介石らが庄吉に贈るために書いた寄せ書きには、「四海之内 皆兄弟也」と記されており、「反日」という当時の状況を超え、彼らが平等の精神で結ばれていたことがわかります。庄吉は、合計四基の孫文像を中国に贈り、銅像になった孫文はいく度かの危機を乗り越えて、いままも人々を見守り続けています。

※「四海之内 皆兄弟也」：「世界中の人々は、みな兄弟である」という意味。元々は「中国に古くから伝わる書物『論語』中の言葉。



2 日中友好を目指して

中国政府による孫文の葬儀には、日本から政府関係者や支援者たちが参列していましたが、庄吉とトクは日本人で唯一、宋慶齡ら肉親とともに棺に付き添いました。悲しみの中で庄吉は、「生涯をかけて、あなたの志を伝えていこう」と誓いました。

孫文の死後、日本軍の中国進出にともない、日中関係は悪化していききました。

庄吉は、孫文像を建てることを計画します。日中両国の協力を願った孫文の志を忘れないでほしいと考えたためでした。民衆に右手を差し伸べながらまっすぐに前を見つめる孫文の銅像は、今にも動き出しそうなものでした。現在の価値にして一億円以上にもなった制作費に、庄吉はトクが娘



小坂文乃氏所蔵

● 千葉の別荘で
晩年を過ごす庄吉夫妻

国際連盟や中国政府に送ったのではない
かというのです。ほどなく疑いは晴れま
すが、捜査の中で、中国との深い関係を
示す資料がたくさん見つかったため、庄
吉は世間の非難をあびました。

そんな状況でも、アジアのために日本
と中国は手を取り合うべきだという彼の
信念はゆるぎません。中国との和平交渉
の準備を進めていた庄吉は、駅のホーム
で倒れました。末期の胃がん、手の施
しようのない状態でした。

「おまえほど、わしに尽くしてくれたも
のはなか」

懸命に看病するトクに残して、庄
吉は静かに息を引き取りました。一九三
四（昭和九）年十一月二十三日、六十五
歳でした。



病に倒れる庄吉

3 「おまえほど、尽くして
くれたものはなか」

つぎに庄吉は、孫文を主人公とした映
画「大孫文」の制作を計画します。「日本
人が中国革命を支援したことを映画に
よって人々に伝えれば、両国の関係を改
善できるだろう」と考えたのです。庄吉
が脚本を書いた映画は、五時間にもおよ
ぶカラー超大作になるはずでした。とこ
ろが、日中関係が最悪の状態にまで悪化
してしまい、そのため映画制作への協力
者がいなくなり、とうとう映画化は幻に
終わったのでした。

その後、国際連盟を脱退するなど、日
本は戦争へと急速にかたむいていきます。
失意にしのむ庄吉に、ある疑いがかけら
れました。日本政府を批判する電報を、

時空を超えた庄吉の想い



小坂文乃氏所蔵

庄吉は、孫文との関係について、「一切口外シテハナラズ（決して人に教えてはならない）」と遺言を残しています。トクと娘の千世子はその言葉を守りました。その結果、梅屋庄吉と孫文の国境を越えた友情は長い間、秘密となりました。

日本と中国の国交が正常化したのち、千世子のもとに朱慶齡からの招待状が届き、一九七八（昭和五十三）年、千世子は中国で慶齡と再会します。帰国後、慶齡から千世子に届いた手紙には「長い時間もういかなる状況もこの宝のような貴い友誼を消し去ることはできません」と記され、「できません」の部分が強調されていました。自分たちの国境を越えた友情に対する、慶齡の非常に強い思いが感じられます。

近年、あらゆる分野で急激にグローバル化が進んでいます。国際的な感覚を持ち、厚い友情によって孫文との盟約を貫き通した梅屋庄吉の生涯は、次代を担う若い皆さんに、国境という垣根にとらわれない、広い視野と大きな志を持つことの大切さを教えてくれています。

※友誼：「友情」のこと。
※盟約：固く誓って約束すること。

日本・中国 のできごと

アヘン戦争
が起ころ
浦賀に来航
ペリーが
明治維新が
始まる
デンマークの
会社により
長崎・上海の
通信ケーブルが
敷設される

1883	1882	1878	1871	1868	1866	1853	1840	年表
15歳	14歳	10歳	3歳	0歳				梅屋庄吉の年齢
17歳	16歳	12歳	5歳	2歳	0歳			孫文の年齢

梅屋・孫文 のできごと

孫文
兄がいへる
ハワイへ渡る
梅屋庄吉
小学校卒業後、
大阪・京都を
旅する
梅屋商店の
船に忍び込み、
上海に渡航する
孫文
中国に帰国する

日本の近代化のさきがけ 国際都市長崎



A 20世紀初頭頃の大浦バンド（ブライアン・パークガフニ氏所蔵）

鎖国時代もおお世界に開かれていた都市・長崎には遊学者が多く訪れていた。さらに開国して明治維新を迎えても、日本の近代化をリードし続けていた。たとえば、現在の三菱重工業（株）長崎造船所は、幕末期にいち早く西欧技術を取りいれて造られた、長崎製鉄所が元になっている。長崎は、交通や国際電信の窓口としても、近代日本の重要な役割を果たしていた。長崎の港からは、上海、釜山、台湾、香港、遠くはサンフランシスコなどの都市に向けて蒸気船が運航されていた。さらに、一八七二（明治四）年に長崎と上海間・長崎とウラジオストク間に通信ケーブルが敷かれると、世界への電信ネットワークへの出入り口も長崎となった。江戸時代のみならず明治時代になっても長崎は、大陸からの最新情報や、さまざまな国の人びとが集まる国際都市であったといえる。

中国にせまる危機

一八四〇年、アヘン（麻薬）の貿易をめぐる清国（中国）とイギリスとの間に戦争が起った。最新鋭の軍艦で攻撃をしかけてくるイギリスに敗北した中国は、香港をイギリス領とすることや、上海をはじめとするいくつかの港を開くことを認めさせられ、さらに多額の賠償金を支払うことになった。その後も中国は、第二次アヘン戦争（アロー戦争）やベトナムをめぐる清仏戦争、朝鮮半島をめぐる日清戦争と負け続け、中国国内に欧米列強が進出して大きな影響力をもつようになってしまった。

このような状況に「西洋の勢力を排除しろ」「清国の政治を変えよう」という声が強まって、孫文のような革命家たちが立ちあがった。

中国本国をはなれて海外に移住していた「華僑」の人々も、革命運動を支えた。



A イギリス領となった香港（長崎大学附属図書館所蔵）

大日本
帝国憲法が
発布される

日清戦争が
起こる

日露戦争が
起こる

1889
21歳

1892
24歳

1893
25歳

1894
26歳

1895
27歳

1898
30歳

1904
36歳

1905
37歳

孫文

香港の
医学学校を
卒業する

梅屋庄吉

家を出る。
以降、
香港などを
拠点に活動する

梅屋庄吉

結婚する
結婚後、
一人で香港に
行き写真館
「梅屋照相館」
を運営する

孫文

香港で出会う
孫文

梅屋庄吉

フリービンの
革命家
アギナルドと
親交を結ぶ

梅屋庄吉

香港からシンガ
ポールへ逃れる

孫文

中国同盟会を
結成する

梅屋庄吉

シンガポール
から帰国後、
長崎で上映会を
開催する

梅屋庄吉

東京を拠点に
映画製作・興行を
始める

孫文

東京で「三民主義」について
の講演を行う

孫文

日本から
国外追放される

梅屋庄吉

辛亥革命に撮影
隊を派遣する

孫文

中華民国の
建国を宣言する
中華民国臨時
大統領に
就任する

梅屋庄吉

日本活動写真
株式会社（日活）
設立に関わり、
日活の取締役に
就任する

孫文

第二革命に
失敗して
日本へ亡命する

日本映画界の風雲児 梅屋庄吉



小坂文乃氏所蔵

庄吉にとっての映画事業は、革命支援の資金源であると同時に、大切なライフワークでもあった。シンガポールでの映画ビジネス大成功のあと、帰国した庄吉は映画会社「Mパター商会」（MはMUEY Aの頭文字、パターはフランスの映画会社の社名より）を作った。娯楽映画が主だった映画界に、庄吉は、海外から多くの教育映画を取り入れている。コレラの流行時には、伝染経路や予防策をわかりやすく伝える映画を上映して、被害拡大を食い止めるのに役立った。海外の教育映画の目録を作り、学校や図書館に寄贈もしている。

その後も庄吉は、「日本活動写真株式会社」や「Mカシー商会」などを設立し、映画に関わり続けている。晩年は、超大作「大孫文」を企画するが、日中情勢の悪化から実現しなかった。



● 梅屋庄吉ゆかりの地

気丈な武家の娘 トク

梅屋トク（一八七五―一九四七）は、長崎県壱岐の士族・香椎家から梅屋家の養女となり、やがて庄吉の妻になった。トクは、梅屋商店の切り盛り才能を発揮するだけでなく、香港に渡ってからは庄吉が連れてくる孤児たちを我が子のように育てたり、革命を志して集まる若者たちの面倒をみたりするなど、包容力のある女性であった。孫文の妻・宋慶齡とも強い絆で結ばれており、中国の要人となった慶齡は「梅屋夫妻との友情は、時間や情勢によって消えるものではない」と表現している。



小坂文乃氏所蔵



▲ トクが生まれた可須村（現壱岐市勝本町）

孫文と三民主義



小坂文乃氏所蔵

日清戦争後の中国国内では、革命をめざす組織があちこちで作られはじめた。孫文は、華僑を中心にハワイで興中会を結成して立ちあがるが、失敗する。その後一九〇五明治三十八）年には、いくつかの組織を合同し、東京で中国同盟会を結成した。代表者である孫文は、民族の独立をめざす「民族主義」、政治の民主化をめざす「民権主義」、生活を安定させ貧富の差をなくす「民生主義」の三つからなる「三民主義」をかかげた。

一九二四（大正十三年）一月から八月にかけて行われた「三民主義」講話は、彼の思想の集大成であったが、思い半ばにして未完のまま翌年亡くなった。

孫文以外に庄吉が支援した人々

フィリピン初代大統領 アギナルド

エミリオ・アギナルド（一八六九―一九六四）はスペインからの独立を目指したフィリピン独立運動の指導者で、のちに最初の大統領となった人物である。いくたびかの失敗にもめげず、独立のために活動するアギナルドを庄吉が支援している。

東京在住のインド人革命家 バルカトゥラー



小坂文乃氏所蔵

インド独立運動の活動家で、東京外国語学校（現在の東京外国語大学）の教師でもあった。庄吉は、日本に亡命していたインド革命派の要人とも交流し、革命活動のための資金を提供した。

孫文の恩師 カントリー博士



小坂文乃氏所蔵

孫文が学んだ香港の医学学校・西醫書院の外科主任教授が、イギリス人医師のジェームス・カントリー博士である。胸に秘めた革命の志を孫文から打ち明けられると、カントリー博士は、孫文の革命運動の心強い理解者となった。庄吉とも交流があった彼は、香港での庄吉と孫文の運命的出会いのきっかけを作っている。

日本が 国際連盟を 脱退する	日中戦争が 起こる	第二次世界 大戦が起こる	太平洋戦争が 起こる	広島・長崎に 原子爆弾が 投下される	日本が連合国 軍に降伏する	日本国憲法が 公布される	中華人民共和國 ができる	日本が国際連合 に加盟する	日本と中華人民 共和國が国交を 正常化する	日本と中華人民 共和國が平和友 好条約を結ぶ
1933	1937	1939	1941	1945	1946	1947	1949	1956	1972	1978
65歳										
梅屋庄吉 日中和平工作の ため東京に 向かう途中に 倒れ、亡くなる (享年 65歳) 梅屋トクが 亡くなる (享年 71歳) 宋慶齡が亡くなる (享年 88歳) 宋慶齡が梅屋庄吉 の娘・千世子を 中国に招く										

そんぶん
えんぜつ
 孫文の歴史的演説
だい
しゅぎ
 「大アジア主義」



中国への支那口であった長崎は昔から華僑が多く、孫文はなじみの深い存在であった。なかでも孫文の志に深い理解を寄せていた錦木天根、長崎で東洋日の出新聞を発行し、その新聞社の記者で柔道家の西郷四郎とともに、アジア問題を論じつつ孫文を支援した。また佐佐保出身の金子克己は、日中の平和友好を目指してアジア各地で活動した代表的な人物の一人であった。

狂的な拍手で受けとめたという。
 しかしその後の日本は、孫文の願ひににげん
 反する道へと進んでいくのであった。

中国の軍人で
政治家 袁世凱

孫文の夫人
宋慶齡

慶曆の姉の諱は孔子の子孫で資産家の子孫熙と、妹の美諱は孫文
 の後継者である蒋介石と結婚している。「宋三姉妹」は皆 国の要人
 と結婚しており「ひとりは金を愛し、ひとりは中国を愛し、ひとりは
 権力を愛した」と例えられるほど、中国の歴史に深く関わっている。

政治家としての宋慶齡



「孫文・梅屋庄吉と長崎」
プロジェクト

も設置しており、ミュージ
して活用・発信していくこ
今後も、次代を担う若
い世代の人々に広く知つ
てもらおうべくプロジェクト
トを推進していくことと
している。



参考文献

- 小坂文乃著「ナガサキ人 梅屋庄吉の生涯」(長崎文獻社)
- 川島真「長崎の近代化と中国」(平成23年長崎歴史文化博物館特別企画展「孫文・梅屋庄吉と長崎」図録 所収)
- 増軍「革命前夜「内憂」「外患」の嵐の中で」(同)
- 高橋信雄「国境を越えた友情の絆 革命家と活動星 君ハ兵ヲー 我ハ財ヲー」(同)
- 淡井新聞西部本編「盟約ニテナセル 梅屋庄吉と孫文」(海島社)

－ この本を読んでくださった皆さんへ －

監修（梅屋庄吉ひ孫）
小坂 文乃



長崎県知事
中村 法道



梅屋庄吉は、皆さんが暮らす長崎県が生んだ偉人の一人です。長崎県の人々は昔から、中国をはじめ、海外の国々との交流を盛んに行っていました。そのような風土が、彼の国際的な感覚、そして大きな夢と志をはぐくんだのではないかと思います。

彼は困難な状況の中でも、最後まで自分の信念を曲げず、アジアの平和、日中友好に力を尽くし、その思いを生涯貫き通しました。その生き方は、どんな時も自分の夢

と志を大切に持ち続けることの尊さを、私たちに教えてくれます。

皆さん一人ひとりもまた彼のように、国境という垣根にとらわれない柔軟な考え、そして大きな夢と志を抱き、一步一步、その実現に向けて進んでいけることを、心から願っています。

「人間は肌の色が違っても、言葉が違っても、みんな一回しか生まれてこれない。同じじゃないか。」梅屋庄吉はこのように言っていました。

長崎は昔から異国の人々や文化を受け入れる玄関口としての役割を担ってきました。皆さんも大きな心と柔らかない頭をもった「ナガサキ人」として大きく羽ばたいてください。孫文も梅屋庄吉も、それを樂しみにしていると思います。

長崎の偉人 梅屋庄吉

平成26年3月31日 初版発行 監修 小坂 文乃（梅屋庄吉ひ孫）

発行：長崎県（主管 文化振興課） 〒850-8570 長崎県長崎市江戸町2番13号

TEL：(095) 895-2768 FAX：(095) 829-2336 E-mail：s36510@pref.nagasaki.lg.jp

製作：株式会社長崎文献社 印刷：日本紙工印刷株式会社

本書の無断での転載、複写、複製等を禁じます。